

松本城の魅力 外国人観光客に伝える

— 通訳ボランティアの楽しさを知って25年

シニアライフアドバイザー 松本すみこ

英語が好きで進学

中田和子さん（71歳）が生まれ育ったのは秋田。英語が好きで、東京の立教大学英文科に入学した。入学式の日にも早くもシヨックを受けたという。当時の立教大は地方出身者が少なく、付属高校や都心の有名私立高校から進学してきた同級生たちがきれいに着飾り、当然のように英語をべらべらと喋った。「しまった!（笑）」と思ったそう。

とはいえ、成績では負けてはいなかった中田さん。就職の時期になり、大学の掲示板でNHKの求



ALSA理事長の中田和子さん

人募集を見つけ、大学の推薦を得て受けに行った。しかし、ここでもシヨックを受けることに。今も活躍している有名アナウンサーや司法試験も受けたという、とてつもなく優秀な人ばかり。東北なまりがあった中田さんは落ちてしまった。

そして、就職した先はまったく英語を使う機会のない職場。以来、英語に縁のない生活がしばらく続く。「英語が好きで勉強していただけ。何かに活かそうと考えることをしない、呑気な女の子だったんです」と振り返る。

松本に来たのは、結婚してから。夫は一人息子だったので、1972年、松本の夫の実家に移り住んだ。夫の母はすでに亡くなっており、知り合いもなく、松本に馴染めないまま子供二人とひたすら家にいる毎日だった。

ただ、松本には有名なスズキ・メソッドという音楽の才能教育機

旅行クチコミサイトなどでつねにランクされる国宝・松本城は、予想どおり、大勢の外国人観光客で賑わっていた。入口で目についたのはボランティアガイドという英文表示。ここには毎日、数人のボランティアガイドが交替で詰めている。この団体の生みの親で理事長が中田和子さんだ。大勢のメンバーを束ねながら、自身も週に1回のガイドを行い、松本のおもてなしを支えている。

通訳ボランティアの 楽しさに出会う

関があった。子供が幼稚園に入る

ある日、幼稚園のお母さんの一人が、英語と一緒に勉強しませんかと声をかけてきた。不思議に思っただけで、驚いたことに、その人は「あなたを見てみると、昔、英語をやったような雰囲気よ」と言ったのだ。

このままでいいのかと思いはじめたときでもあり、もう一人を加えた3人で、1週間に1回ずつ、それぞれの家を持ち回りで訪問して、英語の勉強会を始めた。これが英語を再開するきっかけとなった。「あの人が声をかけてくれなければ、今の私はいません」。そして、中田さん自身もともと持っていた行動力が発揮されるきっかけともなった。

2年ほどすると、サマセット・



アルプスの山々とお城と一緒に見渡せるベストポイント

モームを読むクラスがあることを知って、それにも参加した。魅力的な先生と講座内容のおかげもあり、この勉強会は10年続いた。また、会話にも関心が向いていた。最初のチャンスがやってきた。1982年、スズキ・メソッドの世界大会が松本で開催されることになり、ボランティア通訳の募集が始まった。中田さんを含む400人ものボランティアが集まった大会5日間の楽しさは忘れられない。